

第7期第2回あま市まちづくり委員会 会議録要旨

と き 令和6年8月30日（金）
午前10時00分～午前11時30分
ところ あま市役所 2階 A1－3会議室

1. 出席者等
- | | |
|-----|-----|
| 委員 | 13名 |
| 事務局 | 6名 |
| 傍聴人 | 0名 |

2. 委員長あいさつ

3. シビックプライドについて

4. その他

○委員長

シビックプライドをどのように掲げて、あま市を好きになってもらうかを考える。
あま市のことを好きな人を増やしていくことで、プライドにつなげていく。
シビックプライドという言葉は、覚えるにも使うにも長い。
本委員会では、あま市におけるシビックプライドの愛称について検討する。
愛称の案は、次回の委員会までの宿題とする。
あま市のここが好きだとか、漠然的なことでもいいので共有したい。

○副委員

どんなときにシビックプライド感じるか、どういうところが好きか。
誰かの役に立つとか、誰かに喜んでもらえたとき。
シンプルにありがたうと言われたとき。
まちや自分の周りに対して、プラスが見えたときにシビックプライドを感じる。
皆さんが自分の活動のことを、とっても楽しそうに話すとき。
とても住みやすいまち、交通の便も決して悪くない。

○委員

あま市の特徴は、いい意味で都会でもなく、すごく田舎でもない。
悪い言い方をすると中途半端、逆を返すと、非常にバランスが良い。
名古屋市隣の隣だが、土地もまだ余地があり、車でどこでも行ける。
ネガティブな発言ではないが、要するにまちづくりがしやすいまち。
逆の言い方をすると、既存の決まったものがない。
比較的新しいまちだということで、これから新しいものを生み出しやすいまち。

○委員

いろいろなものを1つにまとめることの難しさを感じる。
揃っているようで、揃っていない。
社会見学など学校行事では、高速道路が近いので移動がしやすい。

校舎の照明をLED化するなど、子どもの環境作りに力を入れている。
子供たちもボランティア大好きで、色々なことに対して積極的。

○委員

長年、この地に住んでいて感じることは、非常に住みやすい。
いろんな史跡があり、散歩していても楽しめる。
駅前の活性化が進むといいと感じる。
比べるわけではないが、犬山城や犬山の城下街はすごく魅力的。
古い町並みをリノベーションして、新しいのを受け入れている。
他の事例から、何か魅力あるまちにつなげていけると良い。

○委員

静岡県で育ったので、天気がいいと授業で沢登りなどをしていた。自然豊かで良いが、どこに行くにも時間がかかる。
名古屋市内は人が多いと思ったが、住むには便利だった。子どもたちがせかせかとしていて、のびのびしていないと感じた。
あま市が一番住みやすい。
あま市は情報を出すことや、CMがうまくない。あたたかい市だということが、前面に出せるといい。

○委員

職場の関係で、あま市に5年通っている。
職場柄、このまちのことを考えている方たちが多いと感じた。

○委員

シビックプライドを持って生活しているわけではないが、良くなるといいなという思いで過ごしてきた。
アートヴィレッジやイルミネーション、あまつりも集客がすごく良いと思う。
今は色々なことを、より良くしている途中だと思う。

○委員長

自分がその場にいると、当たり前になっていることも、外から見ないと良さがわからないこともある。

○委員

あま市に来て8年、ボランティア歴7年目。
自分のいた地域には無かった、歴史的な行事が多い印象がある。
同居の世帯が多い印象もある。
イベントを開催すると、3世代で参加が多くて非常に盛り上がる。
住みやすく便利だが、公園や道の整備が進んでいない。
地元の人は、地域の歴史に詳しいが、市外から来た人は意外と知らないことが多い。

○委員

所属している団体の活動の中で、自分が動くのではなく、誰かに場を与えるというか、他の方に任せることで、意外と動けることが分かったことがあった。
あま市で、そういった場やきっかけが増えるといいと思う。

地域の高齢者の方々は、横のつながりがとても強い。
昔の経験をもとに、今の子どもたちのために動いてみませんかと訴えている。
クラスの人数が少ないことはメリットとデメリットがある。
あま市しかないものが、私の中ではそこまで確立されていない。
こういう議論の場があることはすごくいいと思う。
他の地域の話を知ると、市民活動センターみたいなサービスがあることがすごいという話を聞く。
あま市は、市民活動やボランティアの応援が、すごいと思った。

○委員

あま市は、盆踊りが活発で旧町時代の踊りも多世代で踊ることができる機会があり、こういった場が設けられていて、経験できることは非常に重要。
畑で作業している高齢者の方に話を聞くと、過去の武勇伝を話してくれる。
そういった高齢者の方が主役となり、他の世代と交流して、地域で尊べる地域はあまりない。

○委員

自分の周りは良い人が多くて、何かあった際に助け合える関係性が築けていると思う。
市役所で月に1回あま結びという障害福祉事業所が出してるショップがある。
相談から開催までの市役所の対応が親切で、動きがとてもスムーズでありがたかった。
政治や議員、行政が身近な感じがする。
あま市のまちづくりの方向性がよくわからない。
方向性が見えてくると、よりアピールしやすい。

○委員長

シビックプライドがあるかないかという話になれば、あると思う。
市が好きだけど、誇りはない人もいれば、好きか嫌いかわからないけど、市に対して思うことがあるとか、色々な人がいる。
誇りという部分に関しては、1、2年でつくれるものではないと思う。
まずは、あま市を好きな人を増やしていくことが大切。
あま市が好きな人を増やしていくためには、どうしたらいいかということを委員会で考えていきたい。
あま市のいいところを、外に発信していくのか、内に発信していくのか、その方向性を決めたい。

○委員

対外的な発信となると、ハードなのか、ソフトなのか気になる。
ハードでは、甚目寺観音等がある。
ソフトでは、子育てがしやすいとか多世代交流ができるとか、人の繋がりになる。
プライドは、誇っていれば対外に向けても伝わっていくもの。

○委員

シビックプライドは、市の中の方が持つものだと考える。
ハード、ソフトのどちらもある。

どちらを出していくかによるが、好きだから外に伝えていく流れなのかと思う。

○委員

市民のプライドを上げていけば、対外的に言えるようになるのではないかな。

○委員長

あま市がすごくいいことをしていても、情報が届いてない場合も多くある。

既存のあるものをしっかり周知して、選択肢を示していくことも大切。

選ぶか選ばないかは、本人の自由。

その選択肢がたくさんあることが、とてもいいことだと思う。

内側にいるといいことにも慣れて、気づけないところがある。

外側から見て、市内では当たり前だけど、他にはないものに目を向けていく。

いいところをたくさん知ってもらい、好きになってもらう段階を目指していく。

あま市のシビックプライドの大筋、愛称を決める前のテーマがあって、愛称を決めていくことになる。

○委員

ボランティアに参加していることを話すと、すごいと言われることがある。

好きだからやっているだけという気持ちが強く、楽しんでいたら誰かのためになっているという事実もある。

自分が好きなことや物を、ただ好きなだけじゃなく、自分が率先して広めてでもいろんな人に知って欲しいという想いが大切。

もっと良い方に進むようにサポートしたいとか、その人や物のためになっているという気持ちでやっている人が多いと思う。

責任感を感じながら、やらなきゃいけないとかではなくて、ただ楽しくやっている状態がすごく良い。

○委員

あま市は、良い意味で発展途上だと思う。

推せあま市、みたいな動きができるといい。

愛称やニックネーム、要するに、あだ名。

私の体験として、市役所の方が親切だと強く感じている。

1回の電話で、手続きに関係する課に繋いでくれて、窓口に行けば自分であちこちに回るのではなくて、職員さんが来てくれる。

関係する事務に関するメモを作ってくれて、非常に助かった。

そういった体験を重ねていくことも、市を好きになるきっかけになる。

○委員

良いところを出し合っていき、そこから愛称を決めていく流れでいきます。

○委員

シビックプライドより短めで、言いやすく覚えやすいもの。

○委員

漠然とシビックプライド持っていますかという質問ではなく、この言葉を知っていますかというような質問ができると良い。

聞いたことある、見たことあるという実体験を増やしていく。

○委員

多世代にも伝わる言葉。
推し活とか。

○委員長

次回までに、各自愛称の案を持ち寄りたいと思います。
宿題として1人1つ以上、何か愛称を考えてきてください。